

第3期

日高市遠足の聖地プロジェクト推進計画 (案)



埼玉県 日高市

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
「遠足の聖地」宣言・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
1 計画の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・	P 3
(1) 計画策定の位置づけ	
(2) 計画期間	
2 本市への遠足の現状と課題・・・・・・・・	P 3
(1) 現状	
(2) 課題	
3 基本理念と目標・・・・・・・・・・・・・・・・	P 4
(1) 基本理念	
(2) 目標	
4 これまでの取組・・・・・・・・・・・・・・・・	P 4
(1) 第1期遠足の聖地プロジェクト推進計画（平成29年度～令和2年度）	
(2) 第2期遠足の聖地プロジェクト推進計画（令和3年度～令和7年度）	
5 プロジェクト推進のための基本施策・・・・・・・・	P 7
基本施策1 PR『知ってもらおう！遠足の聖地日高』	
基本施策2 おもてなし『ようこそ！遠足の聖地日高』	
基本施策3 体験『来て見て触れて！遠足の聖地日高』	
基本施策4 来訪『大人の遠足も！遠足の聖地日高』	
6 長期的展望・施設等整備計画・・・・・・・・	P 13
(1) 長期的展望	
(2) 施設等整備計画	
7 計画の推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・	P 13
8 計画の見直し・・・・・・・・・・・・・・・・	P 13
9 市民コメントの実施・・・・・・・・・・・・・・・・	P 13

はじめに

平成 29 年 4 月に本市が持つ豊かな自然と歴史ある文化を、次の世代に継承し「住み続けたい、来てよかった、住んでみたいと思っていただけるまち」を目指し、「遠足の聖地」を宣言しました。また、これに伴い「遠足の聖地プロジェクト推進計画」を策定し、市のシンボルである巾着田の施設整備や遠足ガイドマップの作成、行幸啓記念碑の建立、魅力を発信するための「大人の遠足」をテーマに動画の制作などを行ってきました。

令和 3 年 4 月には、第 2 期遠足の聖地プロジェクト推進計画を策定し、新型コロナウイルス感染症の影響による、新しい生活様式に沿ったマイクロツーリズム観光客の誘致や市の魅力を生かした体験型観光の推進、2050 年までに二酸化炭素の排出実質ゼロを目指す取組（ゼロカーボンシティ）や持続可能な開発目標（SDGs）への取組など、第 6 次日高市総合計画と連動して、計画を推進してきました。

今回、令和 8 年度の「第 3 期日高市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に伴い、政策の柱となる「稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生」において、「遠足の聖地（大人になっても訪れたいまち）を生かし、交流（関係）人口を創出する」ことを本市の取り組みとして定義しています。また、基本目標の「大人になっても遠足したくなるまち」を目指すため、多くの小学校から遠足の地として選ばれている強みを生かし、子どもだけでなく、大人になっても訪れてみたくなるまちの魅力を広く発信するため、この第 3 期遠足の聖地プロジェクト推進計画（以下「本計画」とします。）を推進し「遠足の聖地日高」を目指します。

「遠足の聖地」宣言

たくさん子どもたちが遠足で本市を訪れ、
豊かな自然にふれることで、伸び伸びと成長し、
豊かな知性や感性を身に付けることができるよ
う、日和田山や巾着田を含む高麗郷一帯を整備し
ます。

住み続けたい、来てよかった、住んでみたいと
思っただけのまちを目指し、ここに「遠足の
聖地」を宣言します。

平成29年4月8日

日高市長 谷ヶ崎 照 雄

1 計画の考え方

(1) 計画策定の位置づけ

本市では平成 26 年に「日高市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、本市の特色や地域資源を生かした施策を推進してきました。その後、社会情勢の変化等を踏まえ、「第 2 期日高市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を「第 6 次日高市総合計画前期基本計画」のリーディングプロジェクトとして位置づけ、総合計画と一体的に取り組んできました。

「第 3 期日高市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生」を政策の柱の一つと定め、「大人になっても遠足したくなるまち～遠足の聖地～」を基本目標として掲げており、本計画は遠足の聖地プロジェクトについての基本的な事業計画として策定するものです。

(2) 計画期間

令和 8 (2026) 年度から令和 12 (2030) 年度までの 5 年間を計画の対象期間とします。

2 本市への遠足の現状と課題

(1) 現状

本市は東京都心から 40 k m 圏内にあり、西武鉄道沿線の多くの学校から遠足にご利用いただいています。令和 6 年度には 96 校、8,437 人の方に遠足でご利用いただきました。

ご利用いただいた学校から巾着田について、「児童の学びに役立つ」、「環境が良い」といった意見があり、複数年連続してご利用いただいている学校が多い状況です。

また、トレッキングやハイキングなどで本市を訪れる方も多く、秋の巾着田曼珠沙華まつりの時期には、公共交通機関と連携したウオーキングイベントを実施し、幅広い年代の方にご利用をいただいています。

(2) 課題

遠足の下見などでは、「雨天対応」や「災害対応」についての問い合わせが多く、ハード整備は重要な課題となります。一方で巾着田の「原風景の維持」と両立する必要があることから、さらなる検討が必要となります。

また、実際にご利用いただいたご意見として「大人数で昼食を取れる場所の拡充」などのご要望もありますが、日高市のことを知らなかったというご意見も多く、周知不足が課題となっています。

3 基本理念と目標

(1) 基本理念

本市は、自然、歴史、文化等、多くの資源を有しています。
その恵まれた観光資源を活用しながら遠足地として整備・PRしていくことで、多くの人に「行ってみたい」「また行きたい」「住んでみたい」と思ってもらえる「遠足の聖地日高」の実現を目指します。

(2) 目標

巾着田遠足申込校及び人数の増加

現状値：令和 6 (2024) 年度 96 校・8,437 人

目標値：令和 12 (2030) 年度 106 校・9,280 人

入込観光客数の増加

現状値：令和 6 (2024) 年 3,062,000 人

目標値：令和 12 (2030) 年 3,370,000 人

4 これまでの取組

(1) 第 1 期遠足の聖地プロジェクト推進計画（平成 29 年度～令和 2 年度）

●遠足の聖地スタンプラリーの実施

遠足や観光で市内を訪れるお客様の回遊性の向上を図るため、巾着田や高麗郷古民家等、市内 12 か所に遠足の聖地スタンプを設置しました。また、スタンプ帳を作製し、市役所や巾着田、高麗郷古民家等の各施設で配布しています。

●巾着田看板の作製

巾着田の入口に、観光客が一目でここが「巾着田」とわかるように看板を設置しました。看板の両脇には、高麗郷古民家にあったシラカシを素材にした休憩用ベンチを設置しました。

●公衆トイレの設置

高麗本郷（駒高地内）に公衆トイレを設置しました。

●案内看板の設置

県道 30 号飯能寄居線の開通に伴い、案内看板を作製し、設置しました。



●遠足ガイドマップの作成

巾着田、日和田山を中心とした地図、日和田山の拡大図、おすすめスポットを一枚にまとめました。どなたでもお使いいただけるよう要所にふりがなをふり、スポット間の距離や時間の目安を載せています。

●ひだか魅力発見動画の制作

「大人の遠足」をテーマに、本市初のシティプロモーション動画を制作しました。本作は、世界中の優れた観光映像を上映・表彰する日本国際観光映像祭において「旅ムービー部門」の最優秀賞を受賞しました。



〔大人になっても遠足したい！～行こう！遠足の聖地へ！～〕

●行幸啓記念碑の建立

平成 29 年 9 月 20 日に当時の天皇皇后両陛下が巾着田を訪問されたことを記念して、行幸啓記念碑を建立しました。



(2) 第2期遠足の聖地プロジェクト推進計画（令和3年度～令和7年度）

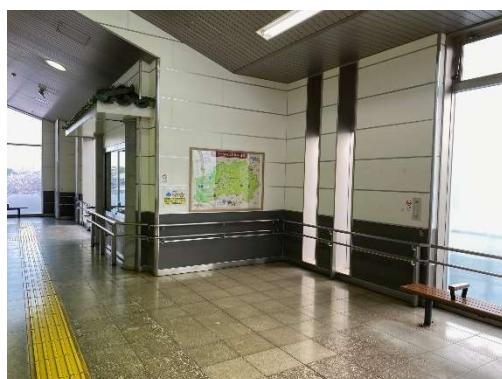
●高指山広場の整備

令和3年に緑の基金を活用し、高指山広場の整備及び高指山山頂に木柱看板を設置しました。また、日和田山からのハイキングコースの休憩地として安全に利用できるよう、擬木柵を設置しました。



●武蔵高萩駅自由通路に観光案内看板の設置

令和5年3月に武蔵高萩駅自由通路に観光案内看板を設置しました。



●巾着田天神橋付近に鯉のぼりの支柱設置

令和5年4月に埼玉県ふるさと創造資金補助金を活用し、巾着田天神橋付近に鯉のぼりの支柱を設置しました。鯉のぼりの川渡しを行い、新たな観光スポットの創出を行いました。



●巾着田に桜の植樹、芝生の植栽を実施

令和7年2月に埼玉県みどり市町村支援事業補助金を活用し、ソメイヨシノ 15本の植樹及び芝生約 1,800 m²の植栽を行いました。

遠足やハイキングで訪れた方が、休憩できるスポットの創出を行いました。



●日和田山の案内看板を更新

令和8年1月に日和田山二の鳥居前の案内看板を更新しました。



5 プロジェクト推進のための基本施策

基本施策1 PR『知ってもらおう！遠足の聖地日高』

現在、東京都からも多くの学校に遠足でご利用いただいておりますが、今後も継続してご利用いただくことはもとより、新規の利用者を増やすことが重要です。

そこで本市の周知PRを強化し、知ってもらうことで、遠足地として本市を訪れてもらう学校や利用者を増やします。

視点1 関東平野と秩父山地が始まるまちPR

学校の授業でも取り上げられる関東平野と秩父山地が接する場所のひとつが「日高市」です。

本市が学校の学習と関連性のある場所であることも踏まえ、本市の魅力をPRしていきます。

具体的な施策

- ・遠足ガイドマップの配布
- ・Instagram や YouTube 等のSNSを用いたPR
- ・関東平野（都心）を一望できる場所として、日和田山や白銀平等をPR



視点2 公共交通機関各社との連携

遠足の移動手段として必要不可欠な公共交通機関である鉄道会社や路線バス会社と連携することで、PR体制の強化を図ります。

具体的な施策

- ・市内各駅構内への観光パンフレット、遠足ガイドマップ等の配置
- ・ウォーキングイベントの連携実施

視点3 近隣自治体との連携

近隣自治体との連携の強化を図ります。

具体的な施策

- ・隣接した飯能市との連携
※飯能市・日高市賑わい創出連携事業協議会の協力を得る。
- ・高麗川遊歩道で繋がった坂戸市との連携
- ・埼玉県西部地域まちづくり協議会（ダイアプラン）との連携

基本施策2 おもてなし『ようこそ！遠足の聖地日高』

遠足の聖地を目指す上で受け入れ態勢の整備、維持管理はとても重要です。

受入れ施設のみならず、自然環境等の維持管理を行うことで、本市にお越しいただく皆様をお迎えする環境をさらに充実させます。

視点1 ハイキング道等の整備・研究

日和田山や物見山等、遠足として訪れる山々にあるハイキング道の整備やトイレ等の整備の検討、悪天候時の対応についての研究をします。

具体的な施策

- ・子どもたちに魅力が伝わる道標や案内板の整備
- ・悪天候時の対応についての研究
(高麗郷古民家や近隣施設への誘導等)

視点2 観光ボランティアガイドの育成・活用

市内に点在する観光地を案内する観光ボランティアガイドを育成します。

具体的な施策

- ・観光ボランティアガイド育成講座の開催



視点3 原風景の維持

巾着田、高麗川の自然や高麗郷古民家等の歴史的建造物を含む、本市に存在する原風景を維持、活用、保全する等、受入れ環境を整備します。

具体的な施策

- ・巾着田の原風景の維持
- ・清流高麗川の保全活用
- ・高麗郷古民家の維持活用



基本施策3 体験『来て見て触れて！遠足の聖地日高』

遠足は「児童の学びに役立つ場所」であることも重要です。

また、昭和43年10月2日文部省初等中等教育局長通達「小学校、中学校、高等学校等の遠足・修学旅行について」の中に、遠足を「学校内では得がたい学習を行う機会として有効に活用する」とあります。

本市が有する特色を明確にすることで、遠足内容の充実を図ります。

視点1 歴史と文化の継承

西暦716年（奈良時代）、大和朝廷は律令制の元、関東一円の七国（駿河、甲斐、相模、上総、下総、常陸、下野）に住んでいた高麗人を集め、現在の本市と飯能市を中心とした武蔵国に、高麗郡を設置しました。平成28(2016)年には高麗郡建郡から1300年を迎えた歴史のある土地です。

その歴史と培われた文化を継承することで、学習の一助とします。

具体的な施策

- ・ 渡来文化の伝承
- ・ 文化財の整備とPR

高麗石器時代住居跡の史跡整備を行うとともに、各公共施設に展示・保存されている資料等の文化財をPR

視点2 企業との連携

日高市商工会や関係機関との連携を推進

具体的な施策

- ・ 市内及び近隣にある見学可能な企業、工場の調査

視点3 特産品のPR

栗、ブルーベリー、狭山茶（日本茶）、うどん等、本市有数の特産物をPRします。

具体的な施策

- ・ 各農業団体との連携

視点4 コンテンツの開発

本市の歴史と文化、特色を体験できる体験型観光メニューを開発します。

具体的な施策

- ・ 市内各所を巡るスタンプラリーの実施
- ・ 公共交通機関と連携したウォーキングイベントの実施
- ・ エコツアーリズム等の体験型観光の推進
- ・ 近隣市町村等と連携したマイクロツアーリズム（短距離観光）の推進

基本施策4 来訪『大人の遠足も！遠足の聖地日高』

子どもだけでなく、大人も遠足を楽しむ時代。大人や家族のハイキングやキャンプ地としても安心安全に利用してもらえるよう、また、老若男女さまざまな人に本市をお楽しみいただけるよう、整備を進めます。

視点1 バーベキュー・デイキャンプ地のPR

市内に数多くあるバーベキューやデイキャンプができる場所(河川敷等)の情報や、利用時のマナーについてPRします。

具体的な施策

- ・観光パンフレットによるPR
- ・河原での直火の禁止や巾着田河川敷の繁忙期の火気使用有料化等、清流高麗川を維持する活動を展開
- ・デイキャンプでの水遊びのPR



視点2 お土産品のPR

本市の農産物や特産品、特徴を生かしたお土産品創出のサポートをします。

具体的な施策

- ・特産品の創出
- ・ふるさと納税を活用した特産品のPR



視点3 観光資源・魅力の発掘と既存観光資源の調査、活用

市内全域を対象とし、建造物、寺社、自然、景観等の調査を実施し、新たな観光資源の発掘及び現存の資源を見直し、活用します。

具体的な施策

- ・ J R 高麗川駅から西武鉄道高麗駅間の観光ルートの調査及び確立
- ・ 歴史的建造物や寺社を結ぶ観光ルートの調査及び確立
- ・ 遠足後に「家族と一緒に来なくなる」観光資源の調査及び確立

視点4 行幸啓コースの確立・P R

平成 29 年 9 月 20 日、当時の天皇皇后両陛下が私のご旅行で本市を訪問されました。訪問されたスポットを『行幸啓コース』とし、観光ルートを確立し、P R します。

具体的な施策

- ・ 両陛下が訪問された巾着田、高麗神社間の観光ルートの確立



視点5 インバウンド需要への対応

近年、インバウンド需要は増加傾向にあります。本市でも巾着田曼珠沙華まつりは多くの訪日外国人観光客が訪れるイベントであり、海外のメディアでの周知も行われています。これらを契機として、本市への誘客を図ります。

具体的な施策

- ・ 多言語看板の整備
- ・ 多言語観光パンフレットの設置・P R
- ・ 公衆無線 L A N アクセスポイントの研究

6 長期的展望・施設等整備計画

(1) 長期的展望

- ・地元市民のおもてなし（人材育成）
遠足内容の相談や当日の案内等に対応できるような人材を育成します。
（一社）巾着田管理事務所を窓口とした受入態勢を確立します。
- ・連携強化
鉄道、路線バスの公共交通機関各社、市内商工業事業者、農業団体との連携による、遠足の受入れ態勢の強化を図ります。

(2) 施設等整備計画（令和8年度～令和12年度）

巾着田施設整備計画の策定
巾着田の整備
白銀平の美化及び整備
高麗郷古民家裏山の活用
高麗川遊歩道の活用
森林環境譲与税等の活用

7 計画の推進体制

各施策の推進主体は、産・学・官・市民等の団体が考えられ、それぞれの施策はいずれか1つの団体だけが主体となるとは限らず、むしろ複数が関わって実施していくことが重要だと考えられます。

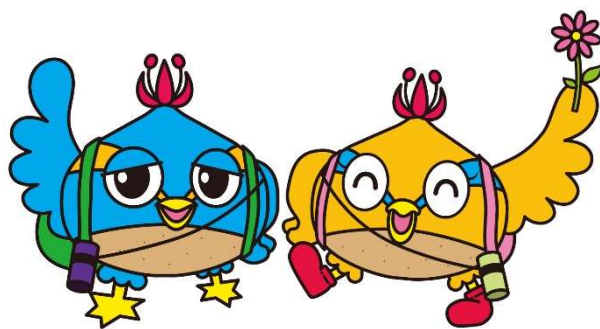
各施策の推進にあたり、必要に応じて関係団体と協議します。

なお、ふるさと納税の使い道のひとつに“ふるさと自慢のまちづくりに関する事業”を掲げており、遠足の聖地プロジェクトの推進をメニューとしていることから、寄附金の一部をプロジェクト推進費用に充当します。

8 計画の見直し

この計画は、第6次日高市総合計画 リーディングプロジェクト(第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略)に準じ、第3期埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略、広域連携の観点では周辺市町村の取り組みを考慮しつつ、随時、必要な見直しを行うこととします。

9 市民コメントの実施



日高市マスコットキャラクター
くりっかい・くりっぴー

第3期日高市遠足の聖地プロジェクト推進計画

発行年 令和8年3月

発行 埼玉県日高市

編集 市民生活部 産業振興課

〒350-1292

埼玉県日高市大字南平沢1020番地

電話番号：042-989-2111（代表）